

つなぎことば ①

「だから」「でも」などの ことばは、二つの 文を つなぐはたらきを します。

このような ことばを「つなぎことば」と いいます。

「つなぎことば」をつかうと、二つの 文の つながりかたが はっきりします。

- おなかか すいた。

だから、おまんじゅうを ^た食べた。



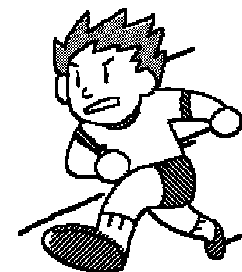
- 「^た食べるな」と ^い言われた。

でも、ぼくは ^た食べた。

つなぎことば ②

つなぎことばを おぼえましょう。

- ぼくは、^{はし}走った。



しかし、まに あわなかった。

- 空が ^{くら}暗く なった。



そして、かみなりが ^な鳴りだした。

- ^{でんしゃ}電車で ^い行くのですか。

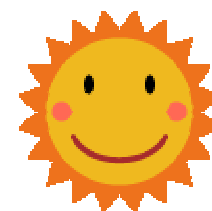


それとも、バスで ^い行くのですか。

つながぎことば ③

いろいろな つながぎことばを おぼえましょう。

- きょうは、あたたかい。
だから、セーターを めいだ。
- 朝^{あさ}は、晴^はれて いた。
ところが、午後^ごから 雨^ごに なった。
- テストは、やさしかった。
でも、一もんだけ、できなかった。
- としょかんへ 行^いった。
そして、本を かりた。



こそあどことば ①

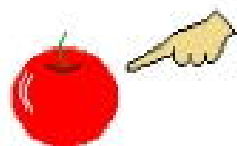
ものごとを さししめす ことばを「こそあどことば」といいます。

話し手に 近い
とき

こ

ここ これ
この こっち

この りんご



話し手から 遠く
聞き手に 近い
とき

そ

そこ それ
その そっち

その りんご



話し手からも
聞き手からも
遠い とき

あ

あそこ あれ
あの あっち

あの りんご

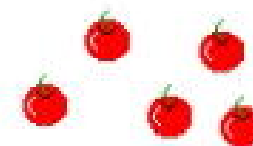


わからない
とき

ど

どこ どね
どの どっち

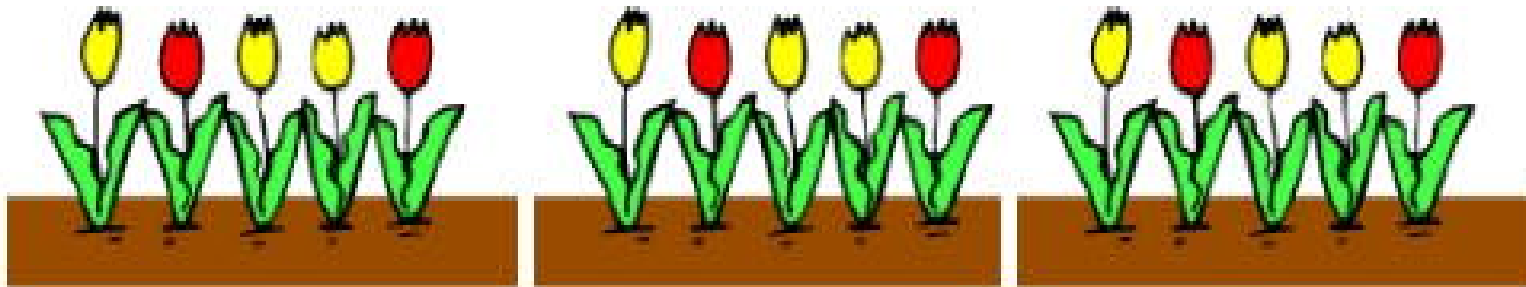
どの りんご



こそあどことば ②

こそあどことばの つかいかたを おぼえましょう。

- **ここ**が あなたの ^{いえ}家ですか。 
- **あそこ**に いるのが ぼくの ^{ちち}父です。 
- ^{いま}今 **そっち**へ 行きますよ。
- ^{きみ}君は **どの** チューリップが ほしいですか。



ていねいないいかた ①

文には、ふつうのいいかたと ていねいな いいかたがあります。

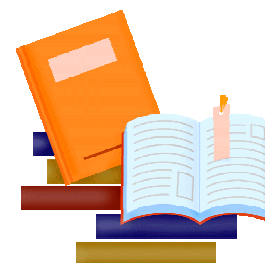
- いっしょに ^{かえ} 帰ろう。

→ いっしょに ^{かえ} 帰り **ましょう**。



- もうしない。

→ もう **しません**。

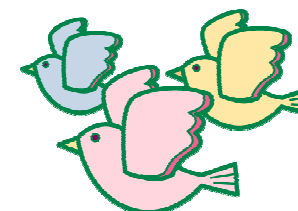


- 本を 十ページ ^よ 読んだ。

→ 本を 十ページ ^よ 読み **ました**。

- ^{とり} 鳥が とんで いる。

→ ^{とり} 鳥が とんで **います**。

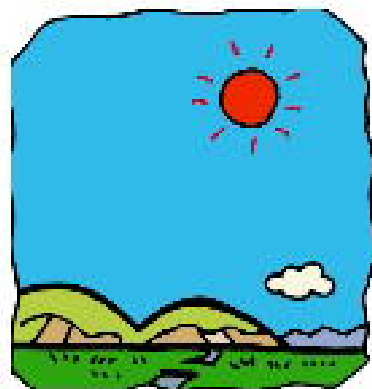


ていねいなのいいかた ②

ていねいな いいかたに なれましょう。

・ あしたは 晴れる
だろう。

・ あしたは 晴れる
でしょう。



・ きょうは 家で ねて いる。

・ きょうは 家で ねて います。



正しいことばづかい ①

文の おわりの いいかたに 気をつけて、どんな ときに
つかう いいかたか ^{かんが} 考えましょう。

- いっしょに しゅくだいを しよう。

→ だれかを さそう とき

- きのうち、おじさんの ^{いえ} 家へ ^い 行き **ました**。

→ もう すんで **しまった** ^い ことを言う とき

- ゆみちゃんも りんごを ^た 食べ **ますか**。

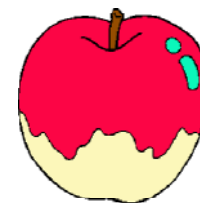
→ たずねる とき

- わたしは さかあがりか **できません**。

→ そうでないと ^い ことを言う とき

- ここで まって **いて ください**。

→ たのむとき



正しいことばづかい ②

文の おわりに 気をつけて、いつの ことを ^い言っているか
^{かんが}考えましょう。

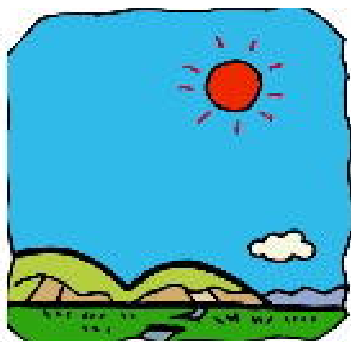
きのうは 大雨でした。



きょうは くもりです。



あしたは きっと 晴
れるでしょう。



きのう ねつが でした。



きょうは 家で ねています。



あしたは きっと なおるで
しょう。



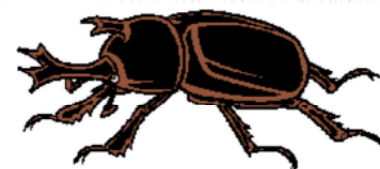
正しいことばづかい ③

正しい言いかたをおぼえましょう。

- ひこうきが 空高く とんで ☐ ください。
☒ います。



- かぶと虫に 糸を まいて とばそうと しましたが、
☐ とびません。
☒ とびました。



- ゆうべ雪が ☐ ふりました。
☒ ふります。



- ぼくはかぜを ひいたので、学校を ☒ 休みましたか。
☐ 休みました。



「。」の つかいかた

文のおわりにはかならず「。」をつけます。

文の^か書き^だ出しから「。」までで一つの文になります。

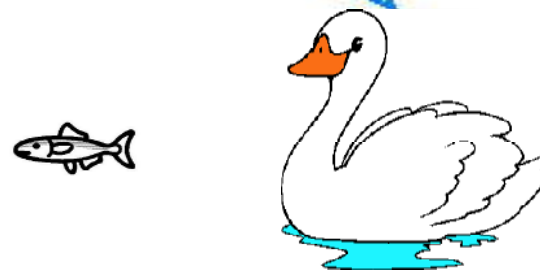
水どりは しずかな いけに すんで います。

ぬまにも います。

足には 水かきが ついて います。 からだは 水に よく
うかびます。

水の中の 小さな いきものや
さかなを とって たべます。

左の 文しょうは 五つの
文で できています。
「。」の かずを かぞえ
ると わかります。

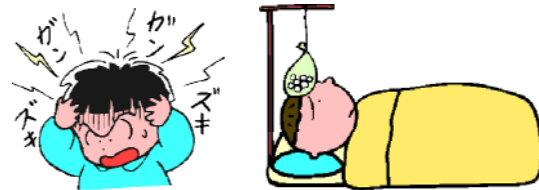


「、」の つかいかた

文を ^よ読みやすく したり、文の いみを わかりやすく
する ために 文の とちゅうに 「、」を うちます。

- 文を よみやすく する。

あたまが いたいから、 もう ねるよ。



- 文の いみを わかりやすく する。
ここから、**はきもの**を めいで ください。
ここからは、**きもの**を めいで ください。



「 」の つかいかた

人の ^い言った ことばには 「 」を つけます。

- 人の ^い言った ことばに 「 」をつけて ^か書きます。

おかあさんが、「しゅくだいをしなさい。」と、
^い言った。

「先生、おはようございます。」

「おはよう、たかゆきくん。」

